

# ハートマウンテン センチネル



Japanese Edition of HEART MOUNTAIN SENTINEL  
(第三十六號)

Vol. II No. 26

June 26, 1943

## 平林事件

二世立退問題は遂に敗訴  
大審院最後の判決は下る

今週我等に降りかか  
つて来た一つの不  
ドニュースは日系米  
國民の立退きを合  
法的なりとする大審  
院の判決であつた。  
右の判決は根本精神  
の問題から言へば確  
かに大きな打撃であ  
るには違ひないが、  
實際に與へる影響か  
ら見れば右敗訴は敢  
て取るに足らざるも  
のである。若し立退  
きが不法行爲である  
と判決されたとして  
も今となつては我々  
の大舉沿岸への歸還  
を唱導し得るものは  
無い。寧ろ我々の現  
在を獨裁者の如く支  
配するのは經濟問題  
であり社會的は勢力  
である。故に最善の  
實際的解決方法は失

張り轉任局が執りつ  
つある再移住計畫に  
依り各地に市民を四  
散させる事だと思ふ。  
右判決の下る前に米  
國民自由協會の願  
問辯護士アルウイリ  
ン氏の如きも、戦時  
中は市民の自由に對  
する寛大な判決は容  
易に下されておらず  
過去の歴史から見て  
寧ろ非常時が経過し  
て後有利な判決が下  
されてゐることを指  
摘してゐるほどであ  
つた。  
數週間のことであ  
るが大審院自身が小  
學生は強制的に星條  
旗に敬禮せねばなら  
ぬと言ふ判決を論じ  
た事もあつた。勿論  
此の判決と市民の立  
退き問題との間には

何等の關係も無いが  
大審院の判決必ずし  
も牢固として抜く可  
からざるものでは無  
いと言ふ證據にはな  
り得るのである。  
我々は立退きを愛國  
的義務なりとして受  
諾し之に協力したの  
であつた。兎に角大  
多數の我々にとつて  
は之はもはや過ぎ去  
つた問題である。た  
だ「立退きが非立憲  
的である」として我  
等の心の中に持つて  
ゐた疑義が取り去ら  
れた事に寧ろ満足を

## ◎ 獨立祭の プログラム

七月四日の獨立祭を  
迎へてセンターでは  
各種祝賀の催しが計  
畫されてゐるが本日  
迄に決定したプログ  
ラムは次の如きもの

感ずるものである。  
(英文論說直譯)

## 短波レデオ 使用を禁止

華府轉任局本部から  
本週發表された訓令  
第九十七號に依り西  
部軍事區域以外にあ  
る四ヶ所の轉住所内  
では短波レデオの聽  
取を禁止されること  
になつた。短波レデ  
オ所有者は全部七月  
一日迄にセンチネル  
ビル内保安部長へ提  
出せねばならぬ。ユ  
タ、アリゾナ、アイ

ダホ、加州等の各轉  
住所は既に日系市民  
でも短波レデオの受  
信機使用を禁止され  
ており、今回の訓令  
が適用されるのはハ  
ート山、グラナダ、  
ロイワート、ゼローム  
の四轉住所である。  
尙短波装置の取りは  
づせる物は其部分だ  
けは返還してくれる。  
又出所の際は(期限  
無期限)本人に手渡  
される筈である。  
尙提出に就いての詳  
細は追つて發表。

である。  
△七月三日、ボーイ  
スカウト及び小學生  
のフイールドデー  
、野球試合以上  
廿六區球場で  
△七月四日、午後大  
運動會、年齢別に  
依る三グループ、

六時半ボーイスカ  
ウトラッパ鼓隊の  
吹奏、ガートルスカ  
ウト歌演、七時野  
球試合、八時社交  
ダンス。  
尙獨立祭式典のプロ  
グラムは目下編成中  
であると。